

会社案内・CSRレポート

CORPORATE

REPORT

2019





CONTENTS [目次]

トップメッセージ	3
シーエックスカーゴの使命	4~5
会社概要	6~7
事業概要	8~9
業務概要	10~11
待っている人の笑顔のために	12~13
安全・安心を届け続ける	14~15
生協物流No.1を目指して一品質・生産性の取り組み	16~17
雇用一働く人とともに	18~19
地域貢献一地域とともに	20
環境一地球とともに	21
すべてのステークホルダーとともに	22
事業所一覧	23

待っている人の笑顔のために 安全・安心を届け続ける

当社は1991年にCO・OP商品の物流を担う会社として設立されました。設立当初は主に日本生協連の物流業務を担っていましたが、次第に全国生協の店舗や宅配の物流業務へと事業を拡大してきました。取り扱い商品も常温から冷凍、冷蔵へと広がり、現在、全国23の事業所で約4,500人の社員が生協の物流を支えています。

私たちの基本的使命は、物流を通じた生協事業と組合員の暮らしへの貢献です。そして、社員一人ひとりが、それぞれの職場で当たり前のことを当たり前に実践し、「待っている人の笑顔のために 安全・安心を届け続ける」ことが、私たちの基本姿勢であり、誇りです。

組合員の暮らしや要望は常に変化し続けており、生協はその変化に応えるべく、商品開発や取り扱い商品の拡大など、さまざまなサービスの改善に取り組んでいます。私たちもまた、これまでに培ったノウハウやグループの総合力をいかし、こうした変化に柔軟かつ効率的に対応できる物流サービスを提供する事で、生協事業へ貢献してまいります。

これからも作業・交通の安全を最優先に、社員が誇りを持ち安心して働き続けられる会社、また、荷主の皆様はもちろん、協力会社や地域社会からも信頼を得られる会社を目指してまいります。そして2020年ビジョンで掲げた「生協物流No.1」を目指し、引き続き努力してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。



代表取締役社長

山田英孝



経営理念 Mission

物流業の社会的使命に誇りを持ち、荷主・協力会社との協同作業で、消費者の暮らしに貢献していきます
物流業としての専門性を発揮し、生協の事業に貢献していきます

経営ビジョン Vision

貢献

顧客満足の実現を第一に仕事を進めます

「シーエックスカーゴに仕事をしてもらってよかった」と心の底から思っていただけの会社を目指します。

信頼

仕事を通して、人のつながりが深まり広まるように進めます

「シーエックスカーゴは信頼できる会社」と仕事の相手先からも評価を受けられる会社を目指します。

誇り

プロの自覚にたって切磋琢磨を進めます

「さすがシーエックスカーゴは物流のプロ」と評価されることを喜びとし、誇りとできる会社を目指します。

挑戦

現状に満足することなく、常に新しいことにチャレンジしていきます

「シーエックスカーゴは常に新しいことに前向きにチャレンジする会社」と仕事の相手先からも評価を受け、社員もそのことを追求する会社を目指します。

Four keywords ありたい姿を示す4つのキーワード



総合マネジメント方針 Management System

シーエックスカーゴは、経営管理や事業課題とともに、運輸安全、労働安全、品質管理、環境保全、内部統制、コンプライアンス、物流・情報セキュリティなどの課題を日々のマネジメントとして総合的にすすめることを目指します。

- 1 物流業の社会的使命に誇りを持ち、法令を遵守し、消費者の暮らしに貢献します。また、物流業としての専門性を発揮することで、生協の事業に貢献していきます。
- 2 目的の実現に向けて、総合マネジメントシステムを確立し、継続的な改善を通じて、顧客満足の向上と安定的な経営を実現します。
- 3 顧客の要望に応え続けていくために、常に顧客の立場に立って、課題を共有し、目標を設定して活動します。
- 4 目標は全社員で共有し、目標達成に向けて日々活動します。また、必要な情報を適切かつ、わかりやすい方法で提供できるよう努めます。
- 5 活動の達成度と有効性を検証するために、定期的にマネジメントレビューを行い、継続的な見直しと改善をすすめます。



待っている人の笑顔のために安全・安心を届け続ける

行動規範 Value

- 1 私たちは、物流の各工程で、一人の消費者の立場に立って、安全・安心をお届けしていきます。商品の安全・安心の信頼は、荷主への貢献・信頼につながります。
- 2 私たちは、荷主、協力会社・取引先との協同作業で物流の仕事をします。安全・安心を届けていくために、仕事の相手先とは常に健全かつ公正な信頼関係を築いていきます。
- 3 私たちは、人を大切に、笑顔のコミュニケーションのある風通しのよい職場、当たり前のことを当たり前に行きわたることが評価される職場をつくっていきます。
- 4 私たちは、きまりを守り、会社の費用、資産を適切に取り扱います。また、安全を第一に7Sの実践、業務改善に日々取り組み、消費者や荷主に貢献していきます。
- 5 私たちは、安全・安心をお届けする会社の社員として、法令を遵守し、環境負荷の軽減に取り組み、地域社会での貢献、企業の社会的責任を果たしていきます。
- 6 私たちは、問題が発生した場合、正直・公正を大切に、速やかに解決に向けて行動します。厳正な調査を行い、必要な情報を速やかに公開し、再発防止に努めていきます。

毎年改善される Cargo-Book で社員全員が繰り返し学んでいます

Cargo-Book は、生協や組合員、物流の基礎知識、そして、社員としての考え方・行動の基準、会社が目指すKPIがまとめられた冊子です。

2003年から毎年改善を重ね、入社時と年度ごとに繰り返し学習を行い、社員の安全と日々の仕事につなげています。



シーエックスカーゴでは、「社員教育」を共に育み成長する意味を込めて「共育」という言葉を使っています。物流は上流・下流で多くの工程があります。教える人は教えられる人でもあり、教えることで学ぶことにつながります。物流や生協について、共に教え学び合いながら、成長していくことを目指しています。

7Sの実践 Standard

Safety「安全」 & Smile「安心」の2つのS(エス)に5S(Seiri「整理」Seiton「整頓」Seisou「清掃」Seiketsu「清潔」Shitsuke「しつけ」)を加えて、シーエックスカーゴでは7Sを仕事で実践しています。

- 1 Safety **安全** 安全な商品をお届けするために安全を第一に仕事をします
- 2 Smile **安心** 待っている人の笑顔のために安心の品質を笑顔でお届けします

- 3 Seiri **整理** スペースと時間を生み出すために不要なものを仕分けて捨てます
- 4 Seiton **整頓** 正確で効率的な仕事のために商品・道具の場所を決めて表示します
- 5 Seisou **清掃** 仕事の準備と点検のために仕事場を掃き、拭き、磨いていきます
- 6 Seiketsu **清潔** 安心をお届けするために道具や職場もクリーンを維持します
- 7 Shitsuke **しつけ** 事故のない仕事をするためにルールと手順を決めて守ります

整理・整頓された職場の仕事は「安全」「品質」「生産性」ヨシ！

シーエックスカーゴの7S活動は、単に仕事場をきれいにすることではなく、自分たちの職場で力を合わせて一緒に行動するプロセスを大切にします。

その繰り返し、職場に「話し合う」「一緒に行動する」「決めたことは守る」習慣をつくり、自分たちの職場意識と助け合いを生み出します。結果として、「安全な職場」「高い品質」「効率的な仕事」を作り出し、「貢献・信頼・誇り・挑戦」の経営ビジョン実現を目指します。

会社概要

日本生協連の子会社として生協物流を支える

日本生活協同組合連合会（日本生協連）は全国約 320 の生活協同組合を会員とする全国組織です。全国で約 2,800 万人の組合員の方が生協を利用されています。

1991年3月、日本生協連によってシーエックスカーゴの前進である「コープエクスプレス東日本」が、CO・OP商品の物流を担う会社として設立され、日本生協連の在庫保管業務から、会員生協の宅配向けセットセンター、店舗向け通過センター業務へ、商品も常温の商品から冷凍、冷蔵の全温度帯へと事業の範囲を徐々に拡大してきました。現在、全国23の事業所で、約4,500人の社員が日々、生協の宅配センターや店舗に商品をお届けすることで、生協の物流を支えています。



シーエックスカーゴ発祥の地、兵庫県小野市の小野営業所

全国をネットワークで結び、発注から在庫保管・配送まで、生協物流をトータルでサポートする

シーエックスカーゴはCO・OP商品を中心に、ナショナルブランド（NB）商品を含めた常温（ドライ）、冷蔵（チルド）、冷凍（フローズン）全ての温度帯で、メーカー引き取り（調達）から納品までの生協物流をトータルで支えています。在庫保管センター（DC）業務を中心に、生協事業連合の宅配向けセットセンター（SC）・店舗向け通過センター（TC）・NBセンターの物流業務を受託し、商品調達、SC・TCまでの配送を総合的に行っています。また、OCRセンター、エントリーセンターなどの関連業務を含め生協物流の総合力と実業の力をいかし、生協に関わる物流の提案とサポートをしています。

さらに、生協のお取引先様に対しても、全国ネットワークを持つ、DCと併設された宅配・店舗業務の運営ノウハウをいかして、生協向け商品の効率的なお預かりや、共同配送を含めた配送・納品の提案をしています。

シーエックスカーゴでは生協物流 No.1、生協にとってなくてはならない会社を目指し、年間を通して、待っている人のために、今日も安全・安心を届け続けています。

- ① 江別営業所
- ② 富谷営業所
- ③ 本社・桶川流通センター・商品管理センター
関東配送センター桶川事業所
- ④ 野田流通センター
関東配送センター野田事業所
- ⑤ 印西冷凍流通センター
- ⑥ 久喜営業所
関東配送センター久喜事業所
- ⑦ 関東配送センター所沢事業所
- ⑧ 関東配送センター長野事業所

- ⑨ 小牧営業所
- ⑩ 神戸営業所
- ⑪ 小野営業所
- ⑫ 尾道流通センター
中四国配送センター
- ⑬ 広島冷蔵流通センター
- ⑭ 篠栗冷蔵流通センター
- ⑮ 鳥栖流通センター
九州配送センター
- ⑯ 鳥栖冷凍流通センター
- ⑰ 始良冷蔵流通センター

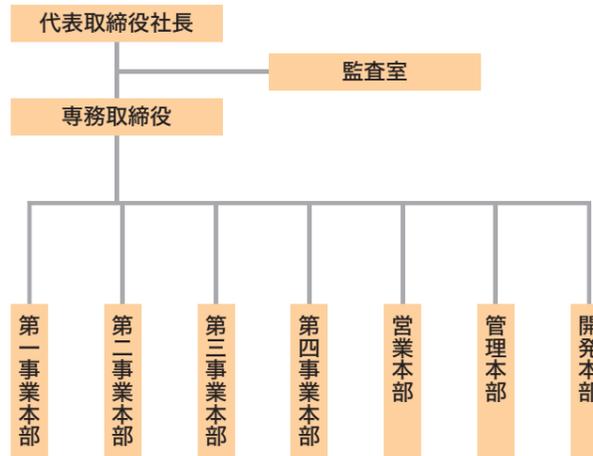
会社概要

- 設立年月日 1991年3月21日
- 資本金 1億円
- 役員
 - 代表取締役社長 山田 英孝
 - 専務取締役 佐藤 豊
 - 常務取締役 宮崎 敏彦
 - 取締役 岡部 昭彦
 - 取締役 牧山 博満
 - 取締役 鳥羽 治明
 - 取締役 山本 克哉
 - 取締役 尾辻 雅昭
 - 取締役 岡田 篤
 - 取締役 宮澤 裕之
 - 監査役 柳田 朗浩
 - 監査役 井上 喜之
- 株主 日本生活協同組合連合会
- 主要取引先 日本生活協同組合連合会
コープデリ生活協同組合連合会
生活協同組合連合会コープ九州事業連合
生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合
協栄流通株式会社
株式会社ふくれん
株式会社コープクリーン
生活協同組合連合会東海コープ事業連合 他

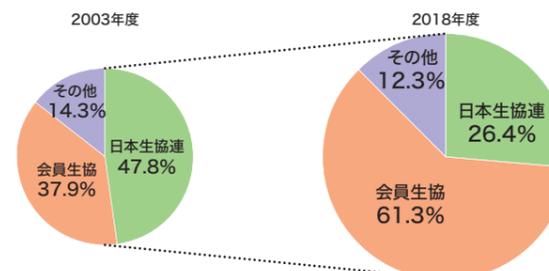
沿革

- 1991年3月 株式会社コープエクスプレス東日本設立
- 1992年11月 株式会社コープエクスプレス西日本設立
- 1993年12月 株式会社コープエクスプレス東日本と西日本を合併し株式会社コープエクスプレスに商号変更
- 1995年10月 資本金1千万円で株式会社シーエックスカーゴ設立
- 1996年9月 株式会社コープエクスプレスより一般貨物自動車運送事業倉庫業を移管。同社営業所を引き継ぐ
資本金1億5千万円に増資
- 1998年3月 株式会社コープエクスプレスからシーエックスに商号変更
- 1998年8月 関東流通センター（埼玉県桶川市）開設
- 2000年3月 仙台流通センター（宮城県仙台市）開設
- 2000年9月 東海流通センター（愛知県小牧市）開設
- 2001年9月 北海道流通センター（北海道江別市）開設
- 2005年3月 九州流通センター（佐賀県鳥栖市）開設
- 2009年6月 株式会社シーエックスと合併
印西営業所（千葉県印西市）開設
- 2009年10月 尾道流通センター（広島県尾道市）開設
- 2009年11月 野田流通センター（千葉県野田市）開設
- 2010年1月 鳥栖冷凍流通センター（佐賀県鳥栖市）開設
- 2012年4月 始良冷蔵流通センター（鹿児島県始良市）開設
- 2012年6月 尾道流通センターに冷凍センターを開設
- 2016年2月 富谷営業所（宮城県富谷市）開設
- 2018年6月 広島冷蔵流通センター（広島県広島市）を開設

組織体制図



営業収益構成比

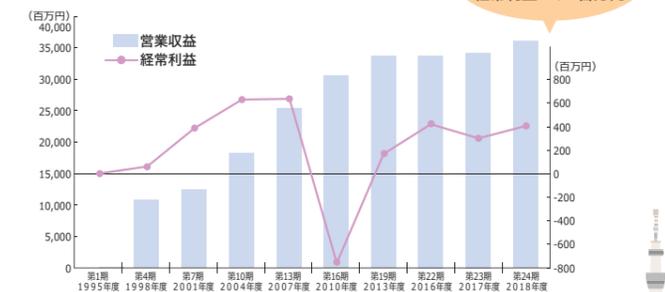


会員生協事業が大きく拡大しました。

内部統制

- 内部統制システム構築に関する基本方針
「業務の有効性及び効率性」「財務報告の信頼性」「事業活動に関わる法令等の遵守」「資産の保全」の4つを目的とした内部統制構築基本方針を定め、コンプライアンス、リスク管理をはじめとする体制の整備を全社統制課題として推進しています。
- コンプライアンス窓口
会社や職場をよくしていくために相談窓口を設けています。相談者の人権、プライバシー、秘密を守りつつ、コンプライアンス活動の基本となる「行動規範」に逸脱したり、その懸念がある事柄を相談できるしくみを整えています。
- 内部監査
内部統制の4つの目的を達成するとともに、幹部層をリーダーとする監査チームを結成し、相互の学び合いによるマネジメントレベルの向上を目指し、業務監査と総合マネジメントシステム監査を融合した新しい内部監査のしくみの整備を進めています。

営業収益・経常利益推移



CO・OP商品を中心にNB商品含めてすべての温度帯で

調達から納品までの生協物流をトータルで支える

「生協物流No.1」「生協にとってなくてはならない会社」を目指して

待っている人の笑顔のために、今日も安全・安心を届け続ける

DC (Distribution Center) : 在庫保管センター

全国にある、日本生協連 DC の入在庫、在庫保管を行っています。CO・OP 商品の保管業務のプロとして、適切な日付・温度管理で安全・安心をお届けしています。また、会員生協商品の在庫保管や NB センターの業務も受託しています。

さらに、全国に配置されたセンターを拠点とした物流ネットワークを活用して、主要な拠点間の共同輸送による在庫移動なども担っており、生協のお取引先様にも、商品のお預かりや納品の提案をしています。

SC (Set Center) : 宅配向けセットセンター

生協の宅配集品点数は全国でも最大クラス、取り扱い商品は全温度帯、全カテゴリーです。養生などの流通加工業務や OCR センター、エントリーセンターなど宅配関連業務を受託し、生協宅配物流を総合的にサポートしています。アイテムフリーにも取り組み、生協物流のプロとして、新たな提案をしています。また、2018 年度実績のミス率が 4.1ppm と非常に高い品質レベルのセンターもあり、コスト、品質面で顧客満足度を第一に仕事をしています。

複合センターでの運営

日本生協連の DC に会員生協 SC、TC を併設することで、商品のリードタイム確保や配送費、商品ロスの軽減に役立つとともに、生協物流として効率的な運営を目指しています。

- DC と SC・TC のリードタイムの短縮
- 車両台数(配送コスト)の削減
- 配車の一元管理による稼働率の向上
- CO₂ による環境負荷の低減

TC (Transfer Center) : 店舗向け通過センター

定番、セールなど店舗の発注に基づいて、CO・OP 商品と NB 商品の在庫・通過商品を組み合わせ出荷しています。生協の要望に応じたタイムリーな納品を行っており、店舗ごとに定められたリードタイムに沿って仕分けをし、カテゴリー別にカゴ車・カートなどに積み付けることで、店舗のレイアウトを考慮した品出しの効率向上につなげています。また、納品の帰り便を活用して、店舗で組合員から回収したリサイクル品をエコセンターなどの処理施設に配送し、資源の有効活用にも貢献しています。

最適・最新の物流システムと自社での設備管理体制

タブレット端末

帳票集品にかわり、タブレット端末を使用して集品することで、ハンズフリー化による工数削減と生産性向上、ペーパーレスを実現しています。また、入庫検収でも導入され、活用の幅を広げています。



ウェアラブル端末

低頻度アイテムに対応して、既存の集品ラインにカートピッキング・ウェアラブル端末を組み合わせ、効果的な集品を行っています。



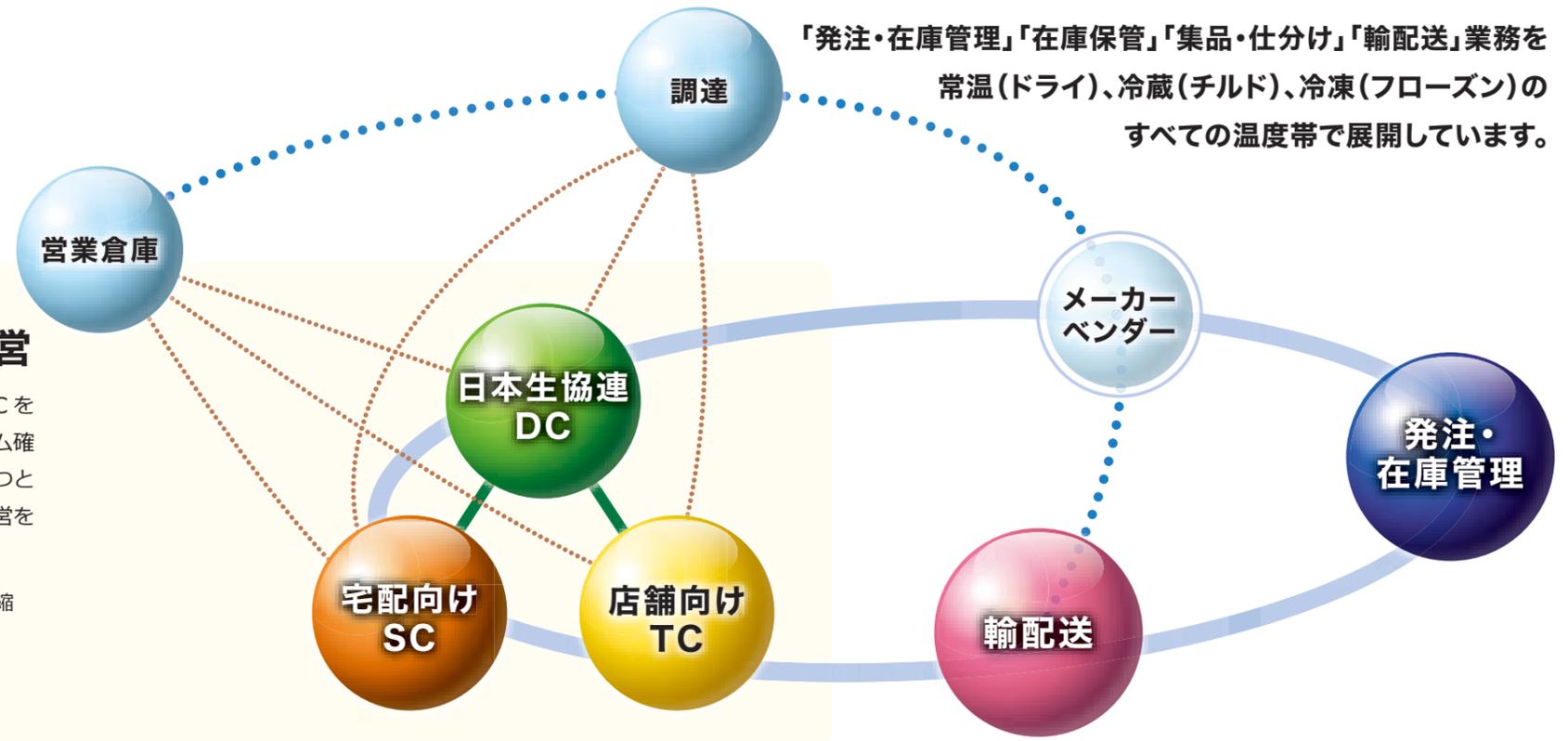
ボイスシステム

集品や検品にボイスシステムを利用することで、ハンズフリー・アイズフリーとなり、生産性向上とペーパーレスを実現しています。さらに、紙帳票を見ながらの作業と比較すると、より作業者の安全を確保することができます。



自社によるマテハン設備の保守・修繕

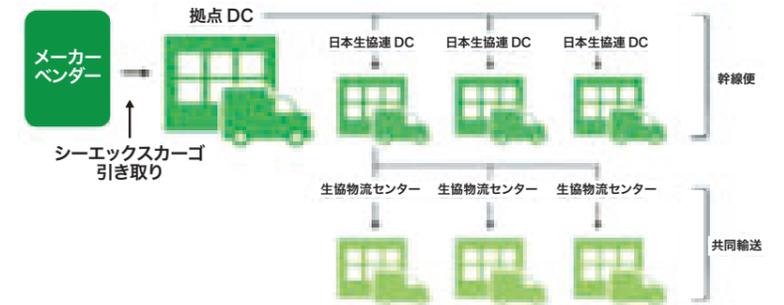
設備修繕の自社化を進め、緊急修繕対応による納品遅れの回避や、部品調達・自社での交換によるコスト削減、さらに日常メンテナンスによる機械の使用年数延長などを進めています。



全国ネットワーク物流 (拠点間幹線便と共同輸送)

生協向けの商品を全国の工場や倉庫から引き取って納品したり、営業倉庫でお預かりして出荷、納品を行っています。

また、全国に配置されている日本生協連 DC のネットワークをいかし、拠点となる DC から商品を引き取り、他の物流センターへの共同輸送を行うことで、物流コストの低減やリードタイムの短縮にも貢献しています。



調達

メーカー・ベンダー様商品の調達業務を行っています。当社調達による、生協の各センターへのスムーズな納品や、商品を事前にお預かりすることによる納品回数の削減、納品トラブル削減にもつながります。

営業倉庫

メーカー・ベンダー様商品の倉庫業務を行っています。日本生協連 DC 向け CO・OP 商品はもちろん、会員生協 SC、TC 向けの NB 商品含め、年間を通して、生協への出荷対応と納品が可能です。複合センターの各入荷も対応しており、急な出荷納品にも迅速に対応しています。デバンニングや流通加工はもちろん、宅配企画ごとの保管など、生協物流のノウハウをいかした提案をしています。

シーエックスカーゴに頼んでよかったと言われるように



営業マネジメント部 部長 猪俣 浩之

当社は設立以来、生協物流に専念し歩み続けてきました。生協事業に貢献するため、全国ネットワークを活用し、全ての温度帯商品の調達、在庫管理、流通加工、販売までの物流スキームのご提案と、効率化を実現いたします。

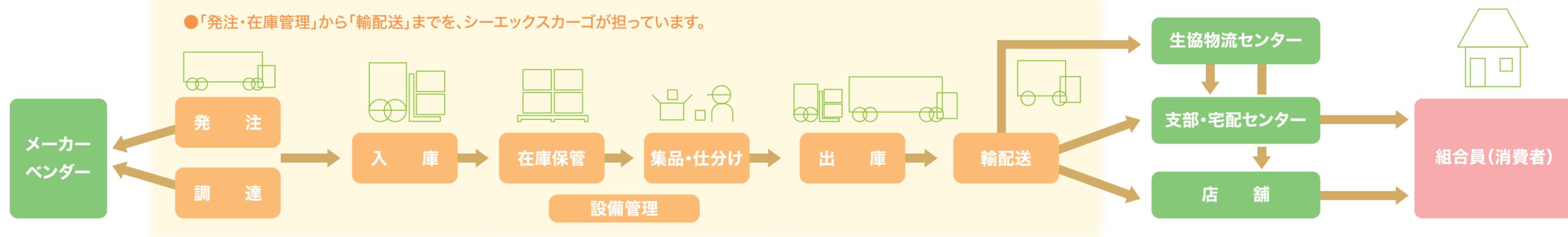
また、環境への配慮と乗務員不足への対応として、2018 年 6 月に幹線便事業にフルトレーラを導入し、運行を開始しました。今後も、新たな取り組みにチャレンジし続けます。

「欲しい商品を、欲しい時に、欲しい数だけ、品質が保証されたものを、より安い価格で提供して欲しい」という消費者の願いを実現するために私たちができること

常温 ドライ(DRY) 25℃程度 冷蔵 チルド(CHILLED) 0℃~10℃ 冷凍 フローズン(FROZEN) -30℃~-18℃

上記の基本3温度帯以外にも「中温度」や、カテゴリーとして雑貨、非食、農産、青果なども取り扱っています。

●「発注・在庫管理」から「輸配送」までを、シーエックスカーゴが担っています。



発注・在庫管理



商品管理センターでは、在庫を保管するCO・OP商品に対する需要の見通しや、生協の受注データをもとに補充発注を行う「発注管理」、商品の入庫および出庫に関する製造日を基準に管理する「日付管理」、在庫保管センターに対して出荷の指示をかける「引当管理」の大きく3つの機能を果たしています。欠品・過剰を発生させずに、商品鮮度を向上させる在庫効率を追求し、相互のリスクをバランスよく管理するための分析や問題解決を行っています。

また拠点DC間の輸送を行う幹線便で、積荷を組み合わせることでコントロールすることで積載効率の向上を図っています。

入庫・在庫保管



荷主様の入庫基準に基づいて、日付、品温、商品の状態(汚れ、破損、におい)、数量を点検します。全ての商品について、入庫で確認した製造日を基準に、入庫から保管、出庫まで、いつでもどのように動いたかが履歴で分かる安全のトレーサビリティを行っています。

点検を受けて入庫した商品は、出荷頻度、重量、容量に応じて効率的に格納し、各温度帯で適切な日付、温度、湿度の管理をしています。また、同一商品を複数の荷主様に対応できるシステムも導入し、保管効率を上げています。

集品・仕分け



CO・OP商品のセンター別集品や複合センター内出荷を行っています。

店舗では、店舗ごとに定められたリードタイムに沿って、ソーター・小分けラインなどを使って、仕分けをしています。店舗のレイアウトを考慮し、カテゴリー別にカゴ車やカートなどに積み付けることで、品出しの効率向上に努めています。

宅配では、班・個人別に仕分けを行い、宅配センター別に納品を行っています。独自のクライムシステムの導入で、高い品質とアイテムフリーの仕分けを可能にし、生協の宅配事業に貢献する物流を実現しています。

流通加工・出庫



商品の集品・仕分け時に、割れ物・においものの養生作業やアソート作業など、流通加工にも要望に応じた対応しています。

また、パレット、カゴ車、ドーリー、カートなど、荷主様の要望に応じた器材で集品を行い、出荷しています。

積み付けは納品先での積み込み順などを考慮して対応しています。

積載効率や配送効率を改善し、物流コストを下げることについても荷主様と協議の上、進めています。

輸配送



常温・冷蔵・冷凍の温度帯にて、拠点から生協物流センターへの一括納品、仕分けた商品の宅配センター、店舗納品を自社車両と協力会社車両にて行っています。

常温・冷蔵・冷凍の全温度帯に対応した車両を配置し、輸配送品質を保つとともに、安全で効率的な配送を実現しています。

また、納品だけでなく、商品の調達についても、全国の物流ネットワークをいかして、メーカー・ベンダー様の効率的な輸送・保管の提案をしています。

設備管理



自動倉庫や商品仕分けラインなど、倉庫内で使用する大型機械・設備の管理の自社化を進めています。

機械の大型化により、大量に集品ができるようになった一方で、集品機械のトラブルが組員への商品のお届けに影響を与えるリスクを抱えています。

機械の保守、日常のメンテナンスで停止事故を減らし、安定稼働につなげています。また、部品の調達・交換や修繕を行うことで、機械の延命も行い、物流コスト全体を引き下げることにも貢献しています。

OCRセンター・エントリーセンター

尾道流通センター内で、生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合の会員生協の関連業務を受託しています。2012年度よりOCR注文紙の読み込み・データ化を行うOCRセンター業務、2015年度より生協組員の加入申込書や宅配班登録の入力作業などを行うエントリーセンター業務を行っています。

生協の物流に関わる業務を受託することで、これからも生協に貢献していきます。



OCRセンター



施設管理部 部長
佐藤 司

マテハントラブルの削減とメンテナンスコストの抑制を進め、生協物流に貢献します

全社で50台以上の大型マテハンを実装し、日常業務を運営しています。その中で、この間自社で設備管理職社員を配置し育成することで、マテハントラブルの発生件数を減少させるとともに、設備維持にかかるコストを、確実に抑制することができてきました。

今後もさらに、設備管理職社員の専門技術習得を深め、全社の安定稼働を確保しつつメンテナンスコスト削減を進め、生協物流に貢献していきます。



商品の安全・安心を守ることが私たちの仕事です



私たちの社員の多くは組合員でもあり
職場や自宅でCO・OP商品を購入しています
受け取る人の立場で商品を取り扱っています

食の安全・安心を守る物流セキュリティ

私たちは、安全・安心なCO・OP商品を「調達してからお客様にお届けするまで」、全ての物流工程で安全・安心な状態が確保できるように日付、温度を含めた品質管理を徹底しています。また、意図的な異物の混入リスク低減に向けて、「物流セキュリティ規程」を制定し、取り組みを進めています。

異物混入を防ぎます

異物混入の可能性を低減するため、ポケットなし制服を着用し、作業現場への持ち込み品のルールを決めています。
また、組合員から戻ってきた宅配用のオリコンの中に、異物が入っていないか一つひとつチェックし使用しています。



ポケットなし制服

オリコン点検

入館者を識別し安全を確保します

商品の安全を確保するため、施設内での社員の制服、社員証着用、来訪者の入館証着用、車両の入場許可証掲示、倉庫内・敷地内出入口への防犯カメラの設置などで入退館強化を図っています。



制服・社員証

入場許可証掲示



マネジメント推進課 課長
田村 寛之

安全・安心を届け続けるために

生協組合員の加入動機の多くは、「安全な商品が欲しい」「家族に安心できるものを食べさせたい」です。そのため、生協商品の物流を担う当社は、一般の物流会社以上の品質が期待されます。
2018年度は「健康被害事故の発生」を全社リスクに設定し、健康被害事故への発展リスクの高い「賞味期限切れ」「品温不良」「異物混入」事故をインシデント管理し、事故防止、削減に取り組みました。結果、健康被害事故および、会員生協、組合員の方へご迷惑をおかけする事故は発生しませんでした。これからも安心してご利用いただけるよう、手順の徹底と情報収集に取り組み、一歩進んだ物流セキュリティレベルを維持していきます。

正しい商品を正しい状態で入庫し保管する

日付管理

予定の日付との照合、設定されている入庫限界日の点検を行います。入庫検収はハンディ端末などを使用し、入庫商品の情報をシステム管理し、倉庫全体で商品の日付管理を行っています。



品温チェック

物流センターに入庫する全ての要冷商品は、入庫検収時に専用の温度計を使用し、検温を行い、温度管理基準内にあることを確認します。



アレルギーチェック

荷主様の条件により、商品のアレルギー表記がカタログと相違ないかの確認などを行っています。



パレット自動倉庫



簡易ラック

定温庫での商品管理

夏場の急な温度変化で、品質低下の恐れのある味噌などの商品は、定温庫での管理を行っています。



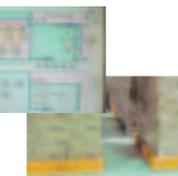
定温庫

物流センター内の温度・湿度管理

取り扱う商品を適切な状態に保てるよう、商品と作業場の温度管理を行っています。また、湿気による箱つぶれやカビの発生を防止するための対策をとっています。



室温管理モニター



パレット間の通風措置

在庫管理区分

在庫保管品は適切な日付管理のもと、適用品(通常品・条件品)と不適用品(出庫止め・隔離品)の区分で保管しています。



日付指定(条件付き)をして出庫する通常品

私たちは受け取る人のことを思い作業をしています



届いたときに商品が破れて利用できないことがないように、カッターを使わず手で開けることもあります



運んでいる間に折れたり壊れたりしないよう、壊れやすい商品は箱に沿って立ててセットします



注文した数が足りないということがないように、点数の確認をしっかり行い、確実に仕分けします



破損を防ぎ、かつ汚れがつかないように、重いものも引きずらず、両手で持ち運びます



ケースも商品。ダンボールの持ち手に穴を開けないように抱えて運びます



重い商品が上になり、下の商品をつぶしてしまわないように、最後に商品を詰め替えます

安全・安心を届け続ける

出庫 輸配送

そして、私たち一人ひとりが、
笑顔で「ただいま」と言える安全・安心な作業と輸送を目指して

見えないところでも手順を守る、それがプロとしての誇り
安全・安心のCO・OP商品を安全・安心に届け続けることが
私たち一人ひとりの組合員への貢献なのです

高い品質の自社運送で確実なお届けを目指して

運送に関わる関係法令を遵守するのはもちろんのこと、決められたことはしっかり守り、顧客から信頼される安全基準を確保し、事故防止に取り組みます。安全・安心なCO・OP商品を取り扱う物流の担い手として、乗務員の健康状態の把握、運転指導や配送前の車両点検など、輸配送の安全向上を管理者ならびに乗務員一人ひとりが考え、取り組んでいます。

自社運送拡大による増車

自社運送事業の強化として2018年度期首からフルトレーラを含む車両16台を増車しました。全国で260台を稼働させています。



乗務職社員の増員

車両の増車に伴い乗務職社員も増員し、全国で328人が活躍しています。新人の乗務職社員には法令に基づいて初期共育(座学・実地訓練・添乗指導)を確実に実施してから単独運行を行っています。



安全運転のための各種研修実施

乗務職社員の確保・定着のために、職務上必要な知識や技能に関する共育を行っています。特に入社1年未満の乗務職社員には、事故の未然防止と安全第一で業務に臨むための知識習得、安全意識の向上を目的に定期的な研修を実施しています。また、事故惹起者には、実態に即した内容で安全運転に対する知識・技能の向上を図り、再発防止へ向けた指導を行っています。

これからも安全と品質を守る乗務職社員の育成を続けていきます。



運転免許取得支援制度の導入

乗務経験者の採用だけでなく、未経験者を自社で育成していくという方針のもと、運転免許取得支援制度を新設しました。中型免許保持者の大型免許取得や、牽引免許取得支援を行い、雇用・育成、スキルアップにつなげており、6人がこの制度を利用し運転免許を取得しています。また、高卒新卒社員もこの制度を利用して中型・大型免許を取得し、乗務職社員として育成していく取り組みも進めています。

輸送事業を継続的に行うために、法令を遵守し安全・安心・確実な輸配送を実現します

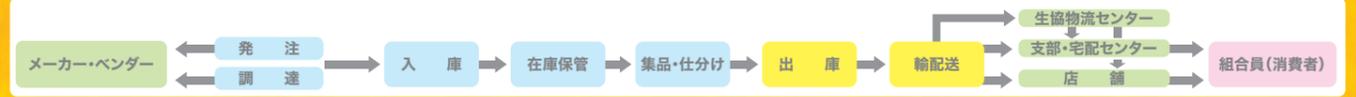


運輸事業部 部長
松本学

輸配送の安全を最優先に、運行管理者の共育・育成、乗務職社員とのコミュニケーション強化・育成(乗務経験が少ない者、事故惹起者)を重点に取り組みを進めました。また運行管理者、整備管理者向けには外部講師を招いた研修で、コミュニケーション力や知識・技能の向上を図りました。4回目となるドライバーズコンテストでは、フォークリフトコンテストと合同開催し運輸安全と安全確実な荷役作業に対する取り組みの成果、到達点を確認し、さらなる安全性の向上へとつなげることができました。

新たなチャレンジとして、当社初となる全長21mフルトレーラを導入し、運行を開始しており、ドライバーの負荷軽減対策として中継輸送を行い、中間地点(静岡県)でドライバーを交代し日帰り運行させることで労働環境の改善にもつなげています。

社会問題となっているドライバー不足に対しては、高卒新卒社員の育成や、未経験者の積極的な採用を行い、特に未経験者への指導を重点として取り組みを進めています。



安全・安心な商品だから安全にお届けします

生協向けの商品を生協物流センター、支部・宅配センター、店舗へ、安全・安心に配送するための取り組みを行っています。

運輸安全マネジメント方針

「輸送の安全に関する基本方針」「輸送の安全に関する目標設定」からなる運輸安全マネジメント方針のもとに「輸送の安全に関する取り組み」を具体化し、全社員が運輸安全に積極的に取り組んでいます。2019年度は、「車両重大事故ゼロ」「道路交通法違反ゼロ」「アルコール反応ゼロ」「1台あたりの車両事故発生件数は軽微な事故を含め、業界平均よりも低い年間0.12件以下」という目標を掲げ、安全・安心のCO・OP商品を配送する運送会社として、協力会社とも連携しながら、さらなる事故防止に努めていきます。

配送協力会社との取り組み

配送協力会社に対しても、安全に対する指導・要請を行うと共に、安全に十分考慮した配送依頼・指示を行い、安全運行を実現します。また、配送協力会社における車両事故についても自社車両と同等の扱いとし、事故分析・対策および乗務職社員指導について点検、改善を行います。

点呼、アルコールチェック、車両点検・整備の適切な実施

運行管理者による点呼では、乗務員の健康状態(疾病、疲労、睡眠時間不足)の聞き取りの確認、アルコールチェッカーで酒気帯びの有無を点検し、安全運行の徹底に取り組んでいます。また、日常管理含め、車両の点検・整備を適切に行うことで事故の抑制を図っています。

交通安全特別強化月間

自社での二度の車両重大事故を受けて、三度重大事故を繰り返さない誓いのもと、毎年9月～10月にかけて「交通安全特別強化月間」を設け、全社員で交通安全に取り組んでいます。



安全性優良事業所認定

事業所単位で交通安全対策の取り組みが評価され、基準をクリアした12カ所全ての運送事業所が認定を受けています。

※事業者の安全性を正当に評価・認定し、公表する制度です



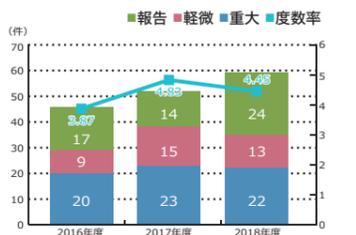
車両事故件数

2018年度の車両事故件数は、重大事故0件、軽微事故63件(うち自社39件)でした。自社車両事故39件の中で、自社・納品先含めた構内で発生した事故件数が23件、車両動作別では前進・後退事故が19件で、そのうち入社1年未満の事故が15件でした。2019年度は、事故要因の中で多く発生した、構内の後退事故と新人乗務員起因の事故を中心に、共通手順に沿った指導・育成を行うことで、安全意識を高め、事故予防に取り組みます。



労働災害件数・度数率

2018年度は目標度数率2.80に対し実績4.45で目標未達成となりましたが、前年度度数率4.83からは、やや好転しました。重点課題3項目の内、「カゴ車・ドローリー事故」は削減することができましたが、残り「転倒事故」、「フォーク事故」は前年と同等の件数で推移しました。2019年度も「転倒事故」、「カゴ車・ドローリー事故」、「フォーク事故」の3項目を年間重点対策課題として、通年で削減に取り組めます。



全長21mフルトレーラ運行開始

当社初となる、全長21mフルトレーラを2台導入しました。2018年6月より、関東⇄関西間の幹線便輸送で運行を開始しています。積載量13tの大型車に対し、フルトレーラでは24.1t分を積載することができ、大型車約2台分(1.8倍)の荷物を輸送することが可能となっています。また、大型車2台分の幹線便運行をフルトレーラ1台で回すことで、CO2排出量、燃料使用量を削減しています。

運行開始にあたり、フルトレーラに乗務する乗務職社員の共育を強化しており、継続的に、研修・添乗共育などを行うことで、安全・安心な運行につなげています。



生協物流No.1を目指して——品質・生産性の取り組み



カーゴビジョン表彰2018では、経営理念・ビジョンを体現した個人・グループを表彰しました

カーゴビジョン表彰2018

「ほめる文化」を形にする、カーゴビジョン表彰を行っています。2018年度は、事業や活動に大きく「貢献」、取引先や社員からの高い「信頼」、仕事を通じて得た私たちの「誇り」、目標に向かって進む高い「挑戦」を体現した個人3組、団体3グループが表彰を受けました。



桶川流通センター業務3課SC2G(個人)

2018年10月の集品作業時に製品不良らしき異常を発見し、即時に上司へ報告。協栄流通株式会社を通じ、コープデリ連合会に確認した結果、原因が判明、適切な対応がされた。安全な商品をお届けする私たちの姿勢を崩さず、適切な判断をしたこの行動は全社員の模範となり、信頼を高めることにつながった。



野田流通センター設備G・業務2課TC4G(個人)

多くの社員の協力の元、ネパールから技能実習生受け入れの取り組みを進めた。中でも、野田へ転居し、先頭に立って実習生25人の指導育成を行う班長、公私共に積極的にサポートを行う2人の社員、3人の献身的な姿勢が、全社員の模範となるレベルであり、事業への貢献を評価。



印西冷凍流通センター・尾道流通センター(個人)

印西の班長は、障がい者を職場実習から採用へつなぐ仕組みづくり、外部機関や学校との連携、社内のコミュニケーション体制など、戦力として活躍できるサポートを行った。尾道の班長は、ジョブコーチおよび障害者職業生活相談員の資格を取得。全員が活躍できる職場づくりのために、近隣の市町村で講演活動も行う。各事業所とも、雇用・定着率が全社平均を上回ることも含めて評価。



始良冷蔵流通センター第2G(団体)

コープ九州事業連合の南部TCとして、19店舗への仕分け作業を行い、徹底した品質改善に取り組んだ結果、2017年の事故発生以来、未誤着ゼロを継続。コープ九州事業連合・生協コープかごしまに貢献し、「待っている人の笑顔のために安全・安心を届け続ける」使命を体現。当たり前のことを非凡なレベルで取り組んでいる好例であり、当社の誇りとして評価。



広島冷蔵流通センター・事業企画部(団体)

立ち上げ時の不具合や豪雨災害が重なる厳しいスタートの中、確実に商品をお届け続けた。思うような成果が出ない中で改善を積み重ね、目標を超える週が出るころまで前進。センター社員の尽力、事業企画部がサポートに入り適切に支援してきた結果が実を結んだ。発展途上だが、互いの信頼によって難局を乗り切る姿勢を体現していることを評価。



西日本豪雨・台風21号対応と支援に尽力した社員(団体)

自然災害が各地に甚大な被害をもたらした昨年度、ライフラインや交通機関寸断で、広範囲にわたり物流が停滞する中、社員や多くの協力会社の支援で、納品影響を最小限に抑えた。日ごろから災害が生じれば全国どこでも駆け付け、組合員の命にもかかわる大切な商品をお届けすることにこだわっている全社員の姿勢が発揮され、難局を乗り切ったことが当社の誇りであるとして評価。

カーゴカップ

職場の班単位で目標を話し合い、安全・品質・生産性を改善していく業務改善活動を全社で実施しています。この活動を社内ではカーゴカップと呼び、顧客や組合員のために、日々の業務を通じて、取り組みを行っています。148チームの中から選抜されたチームが、成果発表大会で発表を行い、その年で最も改善を進めたチームにカップを授与しています。取り組み内容は全社的に共有も進められています。

第13回カーゴカップ優勝チーム
「桶川流通センター業務2課キャロット1G入庫班」

入庫商品の作業工程ごとの切り分け作業を、フリーローラーを活用し効率化

SKU増加などの環境変化に対応するため、作業の問題点を課題化し、作業内容の変更などを丁寧に説明し、チーム一丸となって改善を進めた全体のプロセスが評価された。



ドライバーズコンテスト

安全意識の向上と交通事故防止、プロドライバーとして「当たり前」の事を当たり前、一つひとつの手順を確実に遵守することを目的に、第4回ドライバーズコンテストを開催しました。前大会の振り返りを踏まえ、「安全確認の徹底と安全運転基本共通手順の遵守」、「安全運行のための日常点検の確実な実施」を重点課題とし、全国から選抜された乗務職社員17人が学科・日常点検・運転実技の競技に臨みました。2019年度も引き続き取り組みを進めていきます。



日本生協連DCクレーム件数

全国のDCで、未誤着・汚破損削減の取り組みを進めています。

2018年度は前年度より未誤着29件、汚破損が95件増加しており、削減することができませんでした。

2019年度も引き続き、未誤着・汚破損削減の取り組みを進めていきます。



フォークリフトコンテスト

フォークリフトの技術と知識を高め、継続的な取り組みで、全体の「安全向上」を図ることを目的に、第2回フォークリフトコンテストを開催しました。全国の事業所から選抜された17人の精鋭フォークリフト乗務者が学科・始業点検・実技(荷役)の競技に臨みました。2019年度はさらに技術と知識の向上に向けて取り組みを進めていきます。



重大事故削減の取り組み

物流品質事故の中でも健康被害となる商品の納品や異物混入、組合員配達での大幅な遅れ、セール品の遅配や納品先での作業発生など、危機、重大レベルの事故を減らすことを目標に、リスク管理を強化して取り組みました。結果2018年度は、健康被害を及ぼす納品事故は発生していません。重大事故件数は9件と、2013年度比で44件の削減となりました。

無事故・無違反表彰

日々ハンドルの握る乗務職社員の安全運転は会社、地域社会への大きな貢献であると考え、無事故・無違反を続けた乗務職社員に対して表彰を行い、交通安全に対する意識を高めています。無事故・無違反継続年数により、特別奨励金、特別休暇を付与しています。

無事故・無違反表彰	3年	5年	10年	15年
2016年度	14人	10人	5人	-
2017年度	44人	10人	10人	3人
2018年度	28人	11人	14人	-

商品事故費

商品を壊したり、日付や品温管理のミスで出荷できない状態となる事故を起こすと、商品事故費の発生に留まらず、その後の商品手配や納品にも影響します。

また、商品廃棄は環境にも影響を与えることから、過去の発生事例をもとに、総合マネジメントシステムを通じて継続的な改善を行い、各物流工程で品質向上を目指した取り組みを進めていきます。





笑顔で明日も頑張れる職場と仕事を指して

多様な働き方に応じて…雇用の状況

安全・安心を届ける会社として、安全に安心して長く働き続けられる職場づくりを目指しています。自社雇用、無期雇用の促進、働き方に応じた多様な雇用形態の整備を進め、仕事に誇りを持ち、定着率の高い会社を目指して取り組んでいます。

社員の状況		2018年度				差異
		在籍者数				
		2017年度	2018年度	男性	女性	
無期雇用	全国社員	269	251	231	20	△ 18
	地域社員	258	283	185	98	25
	乗務員社員	315	318	313	5	3
	事業所社員	1,232	1,255	815	440	23
	パート社員	-	199	54	145	199
	短時間パート社員	-	94	7	87	94
有期雇用	パート社員	1,379	1,043	476	567	△ 336
	短時間パート社員	940	909	308	601	△ 31
	アルバイト社員	7	13	9	4	6
	契約社員	3	4	2	2	1
	嘱託社員	9	11	10	1	2
	出向受入	13	15	11	4	2
合計	4,425	4,395	2,421	1,974	△ 30	

戦略的ダイバーシティの推進

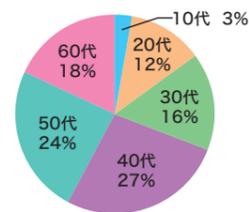
当社では福祉的な視点に加え、経営戦略上重要な考え方としてダイバーシティを位置付けています。年齢や性別、国籍や障がいの有無によらず、積極的に人材を受け入れ、力を発揮してもらうと共に、行政や地域とも連携し、生活困窮者、就労の機会をなかなか得ることができない若者などの採用も進め、誰もが働きがいを持つ職場づくりに取り組んでいます。

Webサイトリニューアル

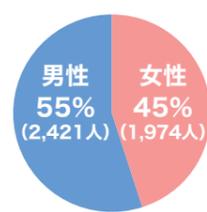
2018年10月にWebサイトのリニューアルを行いました。これに伴い「採用情報」を拡充し、雇用形態や職種ごとの働き方、職場環境や働く社員の雰囲気や抱えている課題を詳しく掲載しています。より具体的に働くイメージを持ってもらうことで、入社後のミスマッチを減らせるよう、いろいろな角度から情報を発信しています。



社員年齢構成比



社員男女構成比



社員満足度の向上をベースとし、雇用確保・人材育成を進めます



人事部 部長 土井 一朗

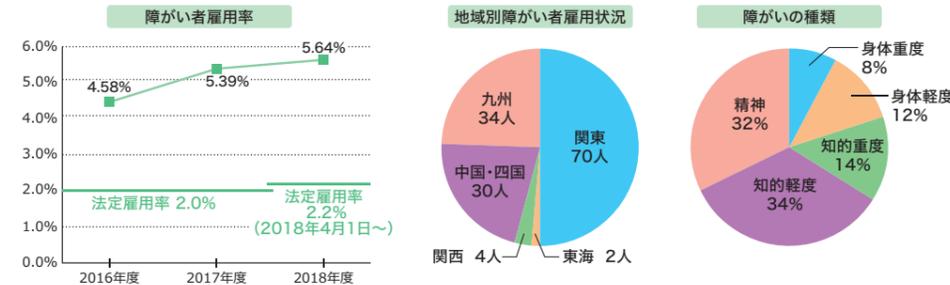
働いている社員の満足度を向上させていくことを最重点に、「働きたい、働き続けたい」と思えるような職場運営、職場環境づくりに取り組んでいきます。

また、障がいがある人や外国籍の人などを含む多様な人材を戦力化できる、社員の成長を促せる、社員が主体的に行動できる環境になるような状態を目指し、組織開発を進めます。さらに、次世代を担う幹部層、中堅層、主任、班長といった階層ごと、専門分野を担う人材の育成を積極的に進め、「共育」の考え方に沿って人材開発を進めます。

共に働く

障がい者雇用

2018年度は新たに22人が入社し、3月現在で140の方が活躍されています。雇用率は5.64%となり、障がい者雇用の取り組みを通じて誰もが働きやすく、能力を最大限に発揮できる職場を目指しています。



障害者を率先して雇用し、その能力の活用に積極的な事業所として、埼玉県障害者雇用優良事業所の認証を受けています。



障害者職業生活相談員と共に歩む

環境の変化は誰もが不安になるものです。そんな時、一緒に悩み・考え・解決策を探るのが『障害者職業生活相談員』と『企業在籍型職場適応援助者(企業内ジョブコーチ)』です。相談員は、企業内ジョブコーチによる研修の中で、「障がい特性」「関係法令」「各種制度」を学ぶ他、事例共有やグループワークを通じてより実践的な対応方法を学びます。加えて、家族や外部機関との連携を強化することで、サポート体制を整え、個人の強みを生かして共に成長できる職場づくりを進めています。

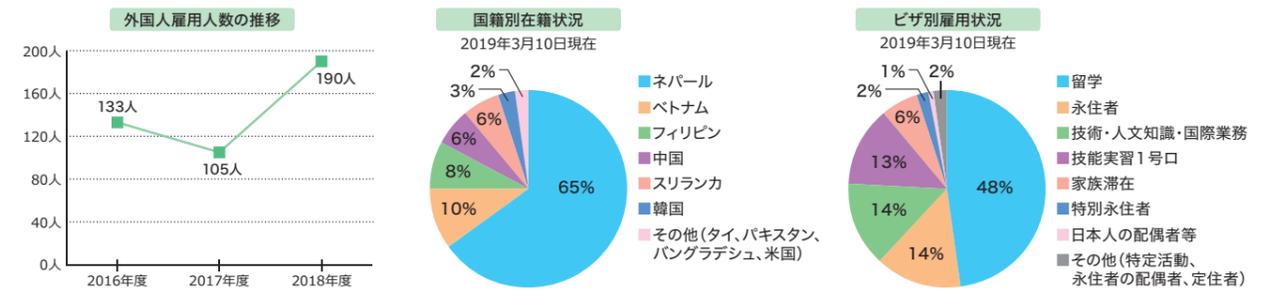
障害者職業生活相談員配置事業所

- ・桶川流通センター
- ・印西冷凍流通センター
- ・野田流通センター
- ・鳥栖流通センター
- ・鳥栖冷凍流通センター
- ・尾道流通センター



外国人雇用

外国人留学生の雇用と合わせて、無期・正規雇用の拡大を進めています。採用・定着・育成を柱に、入社後に担っていただく業務範囲の拡大、役割割当てなど活躍の幅を広げています。また、安心して働き続けていただくための支援として、社員の母国語に合わせた書式の整備、相談窓口の設置、外国籍社員の在留資格変更・更新手続きのフォローなどを行っています。このような取り組みを経て、2018年11月からネパール連邦民主共和国より25人の技能実習生受け入れを行っています。



安心して長く働く…ワークライフバランス

労働時間の適正化

社員の健康、労災防止の観点から、過重労働時間管理や36協定の遵守に取り組んでいます。「36協定超過は法律違反」との意識を持ち、目標0件に向けて取り組んでいます。また、労働時間は1分単位の管理を実施しています。

育児休業・介護休業の促進

育児や介護などでフルタイム出勤が難しいときに、退職することなく、安心して長く働き続けられる環境を整えています。育児のための時間短縮制度の対象範囲を、「3歳に満たない子」から「小学2年修了までの子」に拡大しています。

職場懇談会で翌年度の労働条件の改定を説明

年1回全社員を対象に、部署やグループ単位で「職場懇談会」を開催しています。翌年度の労働条件、36協定の内容および就業規則の改定、コンプライアンスに関する注意事項などの説明の他、会社をよりよくしていくための意見交換の場としても活用しています。

定着率の向上を目指して

長く働きたい、また、紹介したくなる「働きやすい」会社を目指して、2016年度から、「社員定着率」を数字で捉え、社員の定着アップに向けて取り組みを開始しています。2018年度定着率実績83.9%、2019年度目標85.0%。



シーエックスカーゴでは、広島県広島市の「原爆の子の像」に寄せられる折り鶴の再生紙利用を進めています。2018年度新入社員半年研修では、「原爆の子の像」へ新入社員が折った千羽鶴を寄贈しました。



尾道流通センター（広島県尾道市）の太陽光発電パネル

事業所	出力(W×枚)	総出力(kW)	設置枚数(枚)	
野田流通センター	調整池	250×1,404	351.00	1,404
	屋根	265×8,313	2,202.95	8,313
小野営業所	250×1,976	494.00	1,976	
尾道流通センター	ドライ	250×3,528	882.00	3,528
	冷凍	238.1×2,576	613.35	2,576
鳥栖流通センター	250×1,989	497.25	1,989	
鳥栖冷凍流通センター	250×3,136	784.00	3,136	
篠栗冷蔵流通センター	250×4,270	1,067.50	4,270	

東北復興支援でつながる

当社では、東日本大震災で多くの被害を受けながらも、翌朝には東北に支援物資をお届けしました。その後も、東北復興支援として、日本生協連復興支援ボランティア「笑顔とどけ隊」の活動に、年間を通じて積極的に参加しています。また、社員のボランティア活動を支援するため、交通費補助・休暇制度を始めとするボランティア活動制度も整備しています。



スポーツを通して地域を応援

2015年から、日本プロサッカーリーグサガン鳥栖と横断幕スポンサー契約を結んでいます。2018年7月には、サガン鳥栖のゲーム観戦ツアーを行い、ベストアメニティスタジアムの見学、当社の求人募集案内が記載されたうちの配布、試合観戦を行いました。これからも、同じ地域で活動するスポーツチームを応援していきます。



地方ラジオ局CMで知名度向上

地域とのつながりを大切に、会社を知ってもらうきっかけづくりのために「FM おのみち」でラジオCMを放送しています。また、期間限定で「FM NACK5 (エフエムナックファイブ)」にてドライバー募集と春の全国交通安全運動に協賛したCMを放送し、交通安全への取り組みに寄与しています。



交通安全で地域を守る

小野営業所で行われた乗務員ミーティングで、小野警察署の方に講話していただいたことをきっかけに、交通安全の取り組み意欲・意識が高い企業と評価され、小野営業所が「夜間ハイビーム推進運動」推奨事業所の第1号に指定されました。2018年11月には、夜間ハイビーム推進運動 推奨事業所指定・宣誓式が行われました。



若年層の就業支援

各事業所で、県内の高校生・大学生を対象としたインターンシップや中学生の職場体験を実施しています。就業体験の場を設け、具体的な仕事のイメージや雰囲気を感じ、働くということを通して、若年層の就業支援を行っています。



埼玉県知事と雇用について考える

埼玉県内各地を訪問する「知事のとことん訪問」の一環で、埼玉県の上田県知事が桶川流通センターに来訪されました。「働き方」「雇用事例」をテーマに取り組みの説明や施設見学を行い、障がい者雇用や外国人雇用、県と連携した「埼玉県わかもの仕事チャレンジ事業」について意見交換が行われました。



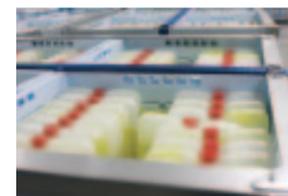
エネルギー使用量・CO₂排出量削減に向けて

日本生協連と共に、温室効果ガス総量削減計画として、2020年までにCO₂排出量の2005年度比15%削減のアクションプランを策定し、年度ごとに目標数値を設定して取り組んでいます。2018年度のCO₂排出量は、目標の48,091tに対して、48,682tの実績で目標達成には至りませんでした。今後も省エネ対策については、施設改善と運用改善に対策を分けて取り組みを進めていきます。

CO ₂ 排出量(t)	2016年度		2017年度		2018年度	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
排出量合計	48,430	98.4%	49,188	101.6%	48,682	101.2%
庫内(排出量)	17,404	98.5%	17,183	98.7%	16,921	100.3%
配送(排出量)	31,026	98.4%	32,005	103.2%	31,761	100.0%

環境負荷軽減に取り組む

2018年度は、桶川流通センターと本社で蛍光灯からLEDへの付け替えを実施しました。昨年度に引き続き、各事業所ごとに電気使用量の削減に取り組んでおり、篠栗冷蔵流通センターでは、気温に合わせて、冷蔵品の出荷に使用する蓄冷材の冷却面積を変更する運用を開始したことで、電気使用量を大幅に削減することができました。



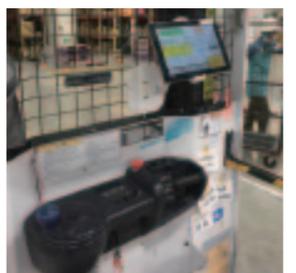
エコ&セーフティの推進

エコ&セーフティドライブ評価システム「TRIAS/TR-SaaS」を導入し、運行中の加減速など乗務員ごとの運転傾向を把握しています。環境に配慮し、穏やかな運転を心掛けることで、大気汚染の防止など環境保全が図れる他、安全確保、事故防止と燃料・資材のコスト削減にもなります。搭載されたドライブレコーダーも使用し、実際の運行画像を確認、乗務員への指導につなげることで、エコ&セーフティドライブを推進しています。



タブレット端末・ボイスシステム導入による紙使用量の削減

野田流通センターで、タブレット端末を導入した出荷集品作業を開始しました。従来の紙帳票をタブレット端末に切り替えることで、これまで集品に使用していた、年間約8万1千枚の帳票(A4サイズ)のペーパーレス化を実現しました。タブレット端末の活用により、作業効率がアップする他、リアルタイムでの作業進捗管理や、作業時間のデータ収集が可能になるなど多くの利点があり、今後も、野田流通センター内で活用の場を拡大していくとともに、他営業所での導入も検討していきます。また、小牧営業所ではボイスシステムの導入により、ハンズフリーでの作業が可能となり、ペーパーレス化も実現しました。





多くの人の協力とつながりに感謝して

多くの社員が参加し、感謝祭を楽しむ

2011年の東日本大震災では、私たち自身被災しながらも、支援物資や商品を届け続けることができました。それは、荷主、協力会社、地域の方々、社員、社員の家族など多くの人たちの協力があったからこそできたことです。

また、物流は上流下流の多くの工程でたくさんの人たちの協力の元に仕事が成り立っています。そんな方たちへ、日頃の「ありがとう」の感謝を込めて、各事業所で「感謝祭」を開催しています。2018年度は、印西、桶川、野田、小牧、神戸、小野、尾道、広島、鳥栖、始良の全国10カ所で開催し、約5,900人の方が参加しました。



外国籍の社員も笑顔で楽しむ



リニューアルした当社ゆるキャラのエコとらちゃんは
子どもたちに大人気



地元の子どもたちが力強い太鼓を披露



抽選会で大当たり、自然と笑顔もあふれる



親子で楽しくスーパーボールすくい



新卒社員1年目・2年目のダンス

全国の生活協同組合の物流を支える 株式会社シーエックスカーゴ

事業所	〒	所在地	電話	FAX
本社	363-0002	埼玉県桶川市赤堀1-5	048-728-3735	048-728-3671
●北海道・東北				
江別営業所	069-0821	北海道江別市東野幌町28-7	011-389-5605	011-384-9329
富谷営業所	981-3341	宮城県富谷市成田9-7-8 コープ東北ドライ統合物流センター内	022-725-7531	022-725-7532
●関東・甲信越				
桶川流通センター	363-0002	埼玉県桶川市赤堀1-5	048-728-7031	048-727-1341
商品管理センター	363-0002	埼玉県桶川市赤堀1-5	048-729-0331	048-729-0332
関東配送センター 桶川事業所	363-0002	埼玉県桶川市赤堀1-5	048-728-7134	048-728-7176
久喜営業所	346-0025	埼玉県久喜市樋ノ口大野50 全農物流(株)内	0480-29-2772	0480-29-3367
関東配送センター 久喜事業所	346-0025	埼玉県久喜市樋ノ口大野50 全農物流(株)内	0480-29-2337	0480-29-3367
関東配送センター 所沢事業所	359-0012	埼玉県所沢市坂之下166-3	04-2945-3858	04-2945-6214
野田流通センター	270-0235	千葉県野田市尾崎向山1684	04-7128-3010	04-7127-6081
関東配送センター 野田事業所	270-0235	千葉県野田市尾崎向山1684	04-7128-3014	04-7127-6084
印西冷凍流通センター	270-1338	千葉県印西市松崎台1-1-1	0476-47-5000	0476-47-6767
関東配送センター 長野事業所	382-0045	長野県須坂市井上砂田1700-11 コープながの須坂物流センター内	026-248-7755	026-248-7759
●東海・北陸				
小牧営業所	485-0037	愛知県小牧市小針3-53	0568-75-1259	0568-72-8946
●近畿				
神戸営業所	658-0033	兵庫県神戸市東灘区向洋町西2-1ケイヒン(株)六甲冷蔵流通センター内	078-857-0762	078-857-0763
小野営業所	675-1369	兵庫県小野市高田町字野山1838-2	0794-63-6900	0794-63-7664
●中国・四国				
尾道流通センター	722-0212	広島県尾道市美ノ郷町本郷字新本郷1-1 尾道流通団地内	0848-20-5376	0848-48-3652
中四国配送センター	722-0212	広島県尾道市美ノ郷町本郷字新本郷1-1 尾道流通団地内	0848-20-5379	0848-48-3716
広島冷蔵流通センター	731-1142	広島県広島市安佐北区安佐町大字飯室6863-2	082-810-2876	082-835-0025
●九州				
鳥栖流通センター	841-0005	佐賀県鳥栖市弥生が丘7-2	0942-82-9190	0942-82-9144
九州配送センター	841-0005	佐賀県鳥栖市弥生が丘7-2	0942-82-9196	0942-82-9144
鳥栖冷凍流通センター	841-0023	佐賀県鳥栖市姫方町1657	0942-50-2600	0942-84-3700
篠栗冷蔵流通センター	811-2405	福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗 4826-1	092-947-6958	092-947-9162
始良冷蔵流通センター	899-5402	鹿児島県始良市中津野577	0995-73-5491	0995-73-5493

会社案内・CSRレポート発行にあたって

株式会社シーエックスカーゴが発行する「会社案内・CSRレポート2019」は、当社の事業活動に伴う社会的責任(Corporate Social Responsibility, 略称: CSR)を明確にし、分かりやすく伝えることを目指しています。本レポートをもとに、ステークホルダーの皆様からのさらなるご期待、ご関心、ご懸念事項などについて真摯にお応えしていきたいと考えます。なお、会社情報や補足データに関しては、当社のWebサイトにも掲載していますので、合わせてご確認ください。

社内コミュニケーションツールの

社内報『Smile』に高い評価!

現場の汗と笑顔を届けることを方針に発行している社内報『Smile』が、社内報アワード2018で受賞。また、経団連推薦社内報審査においても2部門入賞という当社初の快挙となり、社内コミュニケーションのツールとして外部からも高い評価を受けています。



Web サイト URL

<http://www.cx-cargo.co.jp/>



- 報告対象期間 / 2018年3月21日～2019年3月20日 本レポートの数値は、特に記載のない限り会計年度での実績を開示しています。
- 発行 / 2019年6月(次回2020年6月予定)
- お問い合わせ先 / 株式会社シーエックスカーゴ人事部 CSR係 (Tel:048-729-4576)
- WebでのCSR情報提供 / ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを促進するため、Webサイトでの情報開示を積極的に進めています。



広島県広島市にある平和記念公園の「原爆の子の像」に寄贈される折り鶴を原料として再商品化する「平和の折り鶴昇華再生事業」に賛同し、カレンダーや封筒を使用することで平和への社会貢献を果たしていきます。